創立60周年特集号より

　　　　　　平成19年６月号　　藤崎事務局長抜粋

退公連創立に六十周年の節目に寄せて

福岡県退職公務員連盟会長　水落常人

中略～本年創立60周年の節目を迎えます。過去の苦闘が走馬燈の如く甦り、八代にわたる歴代会長・役員・会員の方々のたゆまぬご尽力で、様々な困難を克服され、九州地区の中核としての役割を果たされたことに、深甚の敬意と感謝の誠を捧げたいと思います。

特に初代井口会長の創立当初のご苦労は一入で、中央によく上京され渉外活動に挺身された数少ない先駆者の一人であり、昭和23年、恩給改善運動がＧＨＯの間題で苦境に立ち至った際、井口会長の勇気と決断力は他に類を見ない程の勇壮さだったと聞き及んでいます。

全てＧＨＯのＯＫなくしては万事休すの状態であったとの事です。井口会長は、絶えず辞表を懐に忍ばせ、ついに、マッカサ―元帥に直訴することに成功することが出来ました。

そのように。多くの障害を乗り越え歴史に残る活躍をされました。それは、福岡県退職公務員連盟の存在価値を、全国に広まられた功績は、我々県内会員は、深く心に止めおかなければなりません。

顧みますと、福岡県退職公務員の草創期は、終戦直後の焦土と化した国土、インフレの嵐、国民生活の困窮、苦しみは言語に絶するものがありました。毎日の生活を支える衣・食・住は『荒廃』の一語に尽きます。中でも食糧不足は二合三勺の配給米では一家の食さえままならず、乳飲み子は飢に泣き、身体は痩せ細り、飢餓の地獄図とはまさにこの時代の世相であり、闇市へ走る姿は巷に満ち溢れた状態でした。この生活の危機を脱するため、悩み苦しみを抱く退任先輩の方々は、同志合いより、相助け合い、中央関係当局に粘り強い要望、陳情を重ね続けられた結果、60年の年月を経た今日、恩給、年金受給の生活の保障を勝ち得たわけです。

我々は、この先輩の方々の恩恵を片時も忘れず、今後困難な課題に向けて一致団結して克服していかなければならない決意を新たにし、日々活動の前進を期さなければなりません。